

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第11週[3月15日~3月21日]

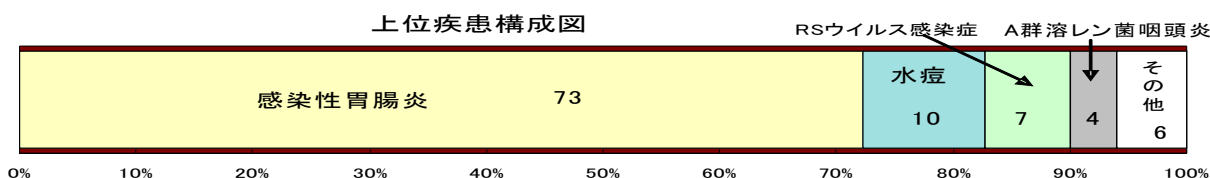
高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

○ 患者情報総評

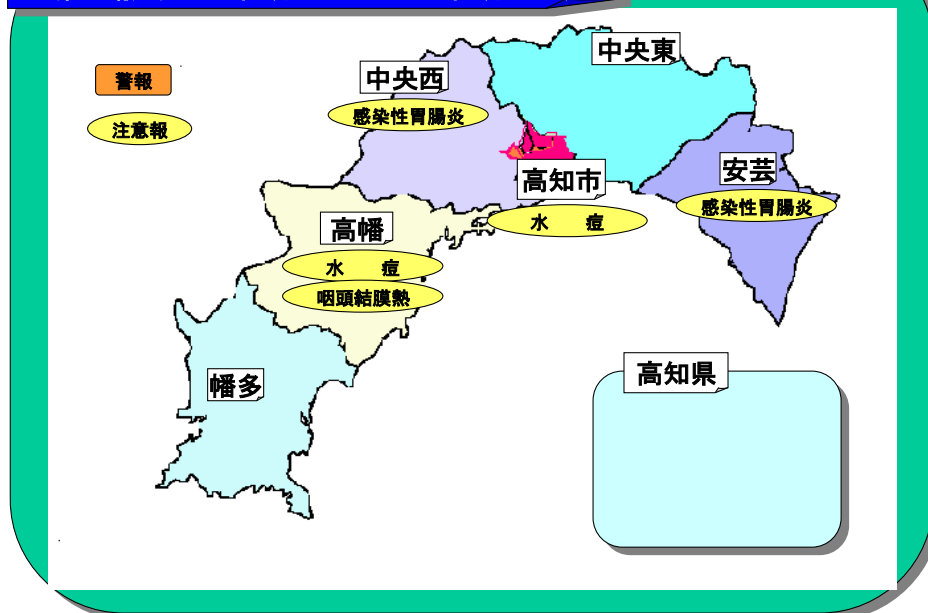
注意報発令疾患：なし

- ・ 晴れて日中は過ごしやすい日が多かったが、朝晩の冷え込みが激しかった。
- ・ 感染性胃腸炎（中央西：注意報，安芸：注意報→注意報）は地域毎に増減がみられ，総数はやや減少した。
- ・ インフルエンザは高知市から2例報告されたのみで，終息に向かっている。
- ・ RSウイルス感染症は中央西を除く地域で減少し，総数はさらに減少し上位疾患第3位に後退した。
- ・ 水痘（高幡：注意報，高知市：注意報）は地域毎に増減がみられ，総数はやや増加した。



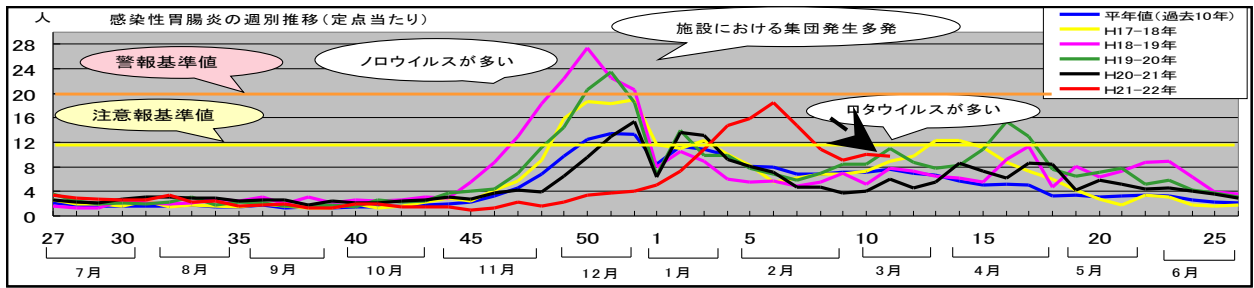
地域別感染症注意報・警報発生状況

第11報 (2010年3月15日~2010年3月21日)



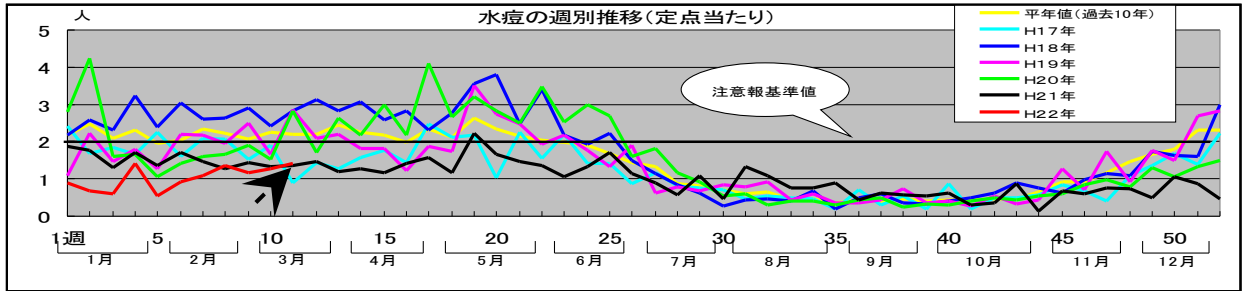
感染性胃腸炎：今週9.73 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

総数はやや減少したが，中央東，中央西，高幡で増加し，中央西と安芸で注意報値を超している。搬入された検体からはNorovirus GII 3件，Sapovirus 2件が検出された。今後はロタウイルス等による小流行のみられる年もあり，引き続き注意が必要である。



水痘：今週1.40（注意報値：2.00 警報値：4.00）

中央東，高知市，高幡で増加し，高知市と高幡では注意報値を超した．その他の地域では減少したが，総数はやや増加した．



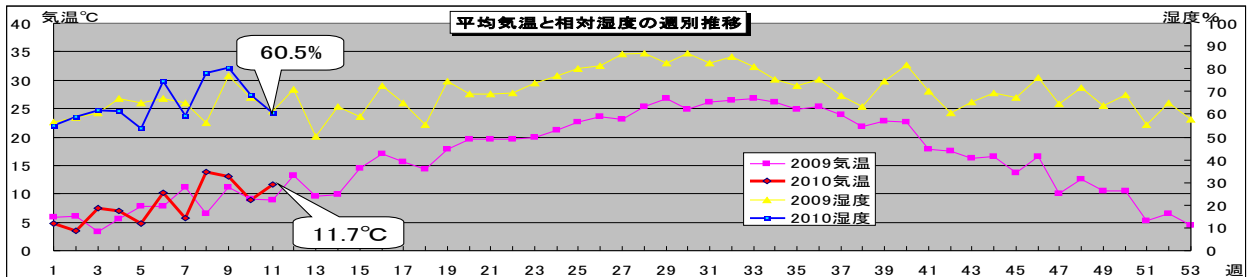
○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
11	感染性胃腸炎	4歳男	高知市	Norovirus G II
11	感染性胃腸炎	2歳男	高幡	Norovirus G II
11	感染性胃腸炎	5歳男	高幡	Norovirus G II
11	感染性胃腸炎	1歳女	高幡	Sapovirus
11	感染性胃腸炎	6歳男	高幡	Sapovirus

○ **全数報告の感染症情報**

報告なし

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

- 《大井田病院小児科》：ジアンノッティ症候群 1例（9歳男）
- 《渭南病院小児科》：アデノウイルス咽頭炎 1例（1歳男）
- 《木俵病院小児科》：マイコプラズマ感染症 1例（41歳女）
- 《さたけ小児科》：膿痂疹 1例（7歳男）

中央西：

- 《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例（1歳男）は県外から帰省，1例（5歳男）は高知市，2例（5歳男，6歳女）は須崎市

高知市：

- 《けら小児科・アレルギー科》：带状疱疹 1例（10歳男）
百日咳の1例（62歳男）は東浜株80倍，山口株320倍
- 《近森病院内科》：インフルエンザの2例中1例はA型陽性

中央東：

- 《早明浦病院小児科》：ノロウイルスと思われる家族内感染性胃腸炎が流行中

全国情報第9週 (3/1~3/7) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核290例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症12例（有症者8例、うちHUS なし）

4類感染症：E型肝炎2例、オウム病1例、デング熱1例、マラリア1例、レジオネラ症5例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、後天性免疫不全症候群11例（AIDS 2例、無症候9例）、梅毒8例、破傷風1例、風しん2例、麻しん5例

報告遅れ：デング熱1例、日本紅斑熱1例、マラリア2例、レプトスピラ症1例、急性脳炎7例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例

◆インフルエンザ

2010年第9週のインフルエンザの定点当たり報告数は0.77（報告数3,688）となり、第4週以降減少が続いている。都道府県別では佐賀県（2.95）、新潟県（2.35）、富山県（2.08）、長野県（1.64）、福井県（1.63）、山形県（1.44）、岩手県（1.39）、岐阜県（1.30）、沖縄県（1.22）、福島県（1.16）の順となっている。秋田県と京都府を除く45都道府県では前週よりも減少がみられている。

定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数の推計値は約4万人（暫定値）と減少し、第28週以降これまでの累積の推計受診患者数は約2,063万人（暫定値）となった。性別では男性約1,065万人（51.6%）、女性約999万人（48.4%）であり、年齢群別では5~9歳約519万人（25.2%）、10~14歳約476万人（23.1%）、15~19歳約280万人（13.6%）、0~4歳約229万人（11.1%）、20~29歳約219万人（10.6%）、30~39歳約155万人（7.5%）の順となっている。但し、推計受診患者数は、受診患者数の多い医療機関がより多く選定されている傾向があることなどから、真の受診患者数より過大であると考えられている。この点を踏まえ、推計受診患者数についてはあくまで参考値として理解していく必要がある。

患者報告数が増加し始めた2009年第28週以降では、2010年第9週までに、全国の地方衛生研究所から28,769件のインフルエンザウイルスの検出が報告され、AH1亜型（Aソ連型）18件（0.06%）、AH3亜型（A香港型）152件（0.53%）、B型29件（0.10%）、AH1pdm（新型インフルエンザウイルス）28,570件（99.31%）とインフルエンザウイルスの検出報告数の大半をAH1pdmが占めている。また、2010年に入っても第1~9週までの9週間で検出・報告された2,435件中、AH1亜型0件、AH3亜型4件（0.16%）、B型23件（0.94%）、AH1pdm 2,408件（98.89%）と殆どがAH1pdmである状態が継続しており、現在国内で発生しているインフルエンザの殆どは新型インフルエンザによるものであると推定される状態が続いているが、ビクトリア系統を中心としたB型インフルエンザウイルスの報告数もやや増加している。

定点からの報告数は、2009年第48週をピークに減少し続け、2010年第3週に一旦やや増加したものの、第4週以降再び減少が続き、2009年第33週以降、インフルエンザの全国的な流行開始の指標である1.00を上回った状態が2010年第8週までの29週間継続していたが、30週目に1.00を下回った。現在日本国内においては、散発的な流行も含めてインフルエンザの流行は殆どみられていないと予想される。しかし、まだ新型インフルエンザの今後の発生動向については不明な点も多く、最近ではB型の検出報告数が増加してきており、AH3亜型も検出されている。インフルエンザの発生動向には今後とも注意が必要であると思われる。

◆感染性胃腸炎関連ウイルス2009/10シーズン

2009/10シーズンに入ってからからの病原体個票による報告では、2009年第36週~2010年第9週にノロウイルス genogroup (G) I 78件（うち、GI/4 6件、GI/7 2件、GI/8 2件、GI/12 1件、NT 67件）、GII 977件（うち、GII/1 1件、GII/2 55件、GII/3 27件、GII/4 132件、GII/6 12件、GII/12 7件、GII/131件、GII/14 1件、NT 741件）、G不明144件、サポウイルス26件（うち、GI 5件、GII 3件、NT 18件）、A群ロタウイルス54件（うち、G1 2件、G9 1件、NT 51件）、アストロウイルス（1型）1件が検出されている。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(10週)	高知県(11週末累計) H22/1/4~H22/3/21
			中央東	高知市	中央西						
内科・ 小児科	インフルエンザ			2				2 (0.04)	6 (0.13)	2,451 (0.51)	2,535 (52.81)
	咽頭結膜熱			1		2		3 (0.10)		552 (0.18)	9 (0.30)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	7	2	1	1	16 (0.53)	24 (0.80)	5,361 (1.77)	237 (7.90)
	感染性胃腸炎	25	64	121	40	14	28	292 (9.73)	300 (10.00)	32,561 (10.73)	3,806 (126.87)
	水痘		7	26	2	5	2	42 (1.40)	38 (1.27)	5,125 (1.69)	340 (11.33)
	手足口病			2	1			3 (0.10)		1,117 (0.37)	20 (0.67)
	伝染性紅斑								5 (0.17)	476 (0.16)	18 (0.60)
	突発性発疹			1	1	1	4	7 (0.23)	6 (0.20)	1,579 (0.52)	95 (3.17)
	百日咳			2				2 (0.07)	1 (0.03)	88 (0.03)	8 (0.27)
	ヘルパンギーナ								1 (0.03)	166 (0.05)	12 (0.40)
	流行性耳下腺炎					1		1 (0.03)	7 (0.23)	3,498 (1.15)	45 (1.50)
	RSウイルス感染症		2	18	7		3	30 (1.00)	48 (1.60)	2,353 (0.78)	726 (24.20)
	アフター性口内炎				1		1	2 (0.07)	2 (0.07)		22 (0.73)
	眼科	急性出血性結膜炎									24 (0.04)
流行性角結膜炎										310 (0.46)	6 (2.00)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 (0.14)	1 (0.14)	5 (0.01)	2 (0.29)
	無菌性髄膜炎									16 (0.04)	1 (0.14)
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.14)	2 (0.29)	171 (0.37)	11 (1.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									8 (0.02)	2 (0.29)
計 (小児科定点当たり人数)	25 (12.50)	78 (11.14)	182 (16.31)	54 (18.00)	24 (12.00)	39 (7.80)	402 (13.31)				
前週 (小児科定点当たり人数)	30 (15.00)	77 (10.79)	203 (18.27)	47 (15.40)	19 (9.50)	65 (12.80)		441 (14.53)	55,861		7,896 (230.75)

定点当たり

第11週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週
			中央東	高知市	中央西				
内科・ 小児科	インフルエンザ			0.13				0.04	0.13
	咽頭結膜熱				0.09		1.00	0.10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.71	0.64	0.67	0.50	0.20	0.53
	感染性胃腸炎	12.50		9.14	11.00	13.33	7.00	5.60	9.73
	水痘			1.00	2.36	0.67	2.50	0.40	1.40
	手足口病				0.18	0.33			0.10
	伝染性紅斑								0.17
	突発性発疹				0.09	0.33	0.50	0.80	0.23
	百日咳				0.18				0.07
	ヘルパンギーナ								0.03
	流行性耳下腺炎						0.50		0.03
	RSウイルス感染症			0.29	1.64	2.33		0.60	1.00
	アフター性口内炎					0.33		0.20	0.07
	眼科	急性出血性結膜炎							
流行性角結膜炎									
基幹	細菌性髄膜炎				0.20			0.14	0.14
	無菌性髄膜炎								
	マイコプラズマ肺炎				0.20			0.14	0.29
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								
計 (小児科定点当たり人数)		12.50	11.14	16.31	18.00	12.00	7.80	13.31	
前週 (小児科定点当たり人数)		15.00	10.79	18.27	15.40	9.50	12.80		14.53

2010年週報推移(定点当たり)

